



バッハの森通信

第 161 号
2023 年
10 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森



普遍的な感動を求めて

絶望的な世界を生き抜くために

異常に暑くて長い夏でした。それでもバッハの森の周辺では酷暑を我慢するだけで済みましたが、日本各地、いや世界各地で、台風やハリケーンとそれに伴う大洪水、或いは、大干魃とそのために起きた大火災が起り、人々は甚大な被害を蒙りました。原因は、地球全体におよぶ「温暖化」だと言われています。最近「温暖化」という生ぬるい表現に飽き足らず、「沸騰している地球」をこのまま放置すれば、間もなく人類は地球上に生存できなくなるという警告も聞こえてきました。

* * *

いずれにしても、誰も否定できない地球全体の気候変動に、人類が生き残りをかけて早急に対処しなければならぬことは明らかです。何年も前から、産業革命以来続いてきた CO2 排出が、地球温暖化の最大の原因であることが認められ、その制限に関する国際的取り決めをしようとする試みがなされてきましたが、先進国と発展途上国の利害が衝突するため、いまだに有効な解決策は見つかっていません。問題は、経済的成長を遂げた地域と経済的に未発達な地域の格差の大きさです。

そこに覇権主義的自己主張が絡むと問題はさらに複雑になります。運命共同体である全人類が、力を合わせて緊急に解決しなければならない地球温暖化問題の解決を後回しにして戦争を始めました。武器、弾薬を消耗し、町や村を破壊して、温暖化を大いに推進する戦争では、かけがいのない多数の人命が失われ、勝っても負けても誰も得るものはありません。それなのにウクライナの戦争は長期化し、それとともに、自

衛と称して世界各国は熱心に軍備を増強し始めました。戦争に勝っても、地球上に住めなくなったらどうするつもりなのでしょう。つくづく人類とは愚かな生き者だと思います。こんなことをしては駄目だと分かっているのに、誰も戦争を止めることができない絶望的な世の中です。

* * *

勿論、私自身、愚かな人類の一人であることを自覚しています。出来るかぎり節約して生きているつもりですが、どれほど地球温暖化抑止に役立っているか自信はありません。要するに、気候変動についても、国際政治に関しても、問題解決に役立つような力を持たない一般市民の一人です。それでも、この絶望的な世界で希望を失わずに生きてこられたのは、バッハの森の活動から力を得てきたからです。

このような説明をすると、バッハの森は新興宗教団体かと思う方がいるかもしれませんが、そもそもバッハの森は宗教団体ではありません。1985年に創立してから今年まで38年間、主にルターからバッハまでの200年間に作詞・作曲されたコラールと呼ばれるドイツの讃美歌、それをもとにバッハが作曲したカンタータやオルガン曲、それにルネサンス・バロック時代のミサ曲を合唱、オルガン、ハンドベルなどによって演奏して学んできました。

これらは確かにキリスト教会が生み出した音楽であり、その歌詞はもっぱら聖書の引用です。ですから、これらの音楽を理解するために、先ずラテン語、ドイツ語、聖書、キリスト教などの知識が必要だから、一般日本人には向かないと考えている人が多いかもしれませんが、しかし、バッハの森では、先ず知識として学ぶのではなく、音楽として繰り返しているうちに、誰しもいつしかこれらの音楽が持っている普遍的な感動に共感を覚えるようになることを学んできました。ご興味のある方はご参加ください。元気になりますよ。
(石田友雄)

リコーダー合奏の喜び

去る8月20日(日)に「夏休みの音楽会」が開かれました。バッハの森では、2013年から、小・中学生の子どもたちを対象に、夏季は手作り楽器の製作や合唱、ダンス、ハンドベルなど、参加者の体験を楽しむ「音楽会」、冬期はクリスマス物語を影絵とともに朗読したり、一緒にキャロルを歌う「音楽会」をシリーズとして開いてきました。

今年の「夏休みの音楽会」では、子どもたちの体験活動のテーマとして、リコーダーの合奏を取り上げました。リコーダーは、発音や運指が比較的容易でありながら、柔和で美しい音を楽しめる楽器です。全国のほとんど全ての小・中学校の教育課程で採用されているため、今や国民の誰もが触れたことのある楽器と言えるでしょう。小・中学校で音楽を担当していることから、今回、私がリコーダー合奏のプログラムの進行役を務めさせていただくことになりました。そこで、この企画を中心に「夏休みの音楽会」を振り返り、プログラムの進行にあたって考えたことや、舞台裏の様子を報告させていただきます。

リコーダーの合奏体験と言っても、事前の練習はなく、当日初めて対面する方々とすぐ合奏することになるので、皆さんがどのような楽器をお持ちで、どのくらい演奏できるのか分からないまま、何人くらい集まるのかも分からない状況で、どのようなパート分けをすればいいか計画するのは、なかなか難しいことでした。さらにバッハの森の雰囲気に対応しい曲を演奏したいと考えていたので、課題曲の選曲が問題でした。

なかなかアイデアが浮かばず思案していたところ、比留間恵さんが「私は音楽家」を提案し、初心者でも合奏できるように編曲してくださいました。これは一般に「山の音楽家」のタイトルで知られているドイツ民謡で、子どもにも大人にも親しまれている曲です。当日は、三縄啓子さんの楽しい楽曲紹介と歌唱指導の後、スムーズにリコーダーによる練習を始めることができました。

参加者は小2が2名、小3が5名、小6が1名、中学生が2名、大人が3名という顔ぶれでした。当初の構想とは大分違うメンバー構成でしたが、親子や兄弟で参加した方々も多かったので、年齢だけではな

く、安心して演奏に臨めるパート分けや、座席の配置を心掛けました。

とはいえ、小学校でリコーダーの学習が始まるのは3年生からですから、2年生は全く未経験、3年生も左手の運指しか習っていない状況で、合奏が成り立つかどうか不安でした。さらに中学校では、楽器がソプラノ・リコーダーからアルト・リコーダーに変わるので、混乱を避けるため、最初はソプラノ・リコーダーだけの合奏を考えていました。しかしアルトのパート譜を追加していただいたので、アルトにも参加してもらうことができました。

ソプラノ・パートの練習は、私が奏楽堂で担当し、アルト・パートの練習は、深谷律雄さんが別室で担当してくださいました。深谷さんはリコーダー演奏の長い経験を持っている方で、その高い知見からの的確なアドバイスをしてくださったので、練習を指導してもらった2名の中学生の演奏技術と知的好奇心をぐっと高めてくださいました。このことは、アルト・リコーダーの練習を見学していた父兄の方からうかがいました。

参加者の様子を見ながら手探りのプログラム進行でしたが、パート練習の後で最後に各パートが一緒になって演奏した合奏は、「お客様の前で本番の演奏をする」という形で締めくくりました。リコーダーの合奏に古屋敷憲之さんがチェロで低音の華を加えてくださり、奏楽堂の豊かな響きの中で、全楽器が見事に調和した美しい演奏になりました。初めは恥かしげにしていた子どもたちが真剣な顔つきになり、堂々と演奏する姿を見ながら、私は安堵する気持ちと高揚する気持ちで胸が一杯になりました。

子どもたちは、その時点で有する力を無理なく発揮して演奏することにより「合奏に参加できた」という喜びを味わっているようでした。そのためには、バッハの森のメンバーたちが、子どもたちの力にあった編曲をしてくださり、的確な序言や支援を与えてくださったために高い達成感をもつことができたと感じています。わずか数時間のリコーダー合奏の練習と発表でしたが、この日得た知識や経験が、子どもたちの心に残ることを願っています。

以上、私が担当した「リコーダー合奏」について報告してきましたが、「夏休みの音楽会」では、リコーダー合奏の練習と発表の前後に、別所香苗さんが指導してくださる「子どもと大人のハンドベル・クラブ：バッハの森リンガーズ」の演奏がありました。初

めの曲は、リコーダー合奏のテーマ曲と同じ「山の音楽家」でした。多くの音が重なる豪華な編曲で、ハンドベル特有の奏法や、細かい音の連なりなどが組み込まれた難易度の高い編曲でした。演奏中のリンガーズのメンバーが、それぞれ自分の役割をしっかりと果たしながら、視線や息を合わせ、一緒に音楽を作りながら築いてきた連帯感を感じさせる感動的な演奏でした。音楽会の終わりに、スウェーデン民謡「父なるみ神は」を、ハンドベルと4人の斉唱で演奏してください

いました。歌詞と編曲の壮大さとも相まって、「広がり」や「つながり」に思いをめぐらせることができる温かい演奏でした。

「夏休みの音楽会」を振り返り、バッハの森の学びの豊かさや、共に学ぶ仲間の大切さを改めて実感することができました。感謝をもって、バッハの森で、これからも自分にできることに務めていきたいと願っております。(岩淵倫子)

* * * * * * * *

ドキドキわくわく

楽しかった初めての発表会

私たちは4月からバッハの森リンガーズでハンドベルを始めました。ハンドベルに触るのも初めてだったので、ピカピカのベルがとても重たいことや、手袋をして触らなければいけないことなど、初めて知るばかりでした。でも上手に音が出ると、とてもきれいに響いて、その音にもびっくりしました。

ハンドベルを始めてから初めての発表会が8月にあり、『山の音楽家』の演奏に参加しました。この曲を練習し始めたときは、どのタイミングで鳴らすのか分からず大変でしたし、ベルの音をきれいに鳴らすのも難しかったのですが、先生がやさしく丁寧に教えてくださったので、いっぱい練習して出来るようになりました。

いよいよ本番です。思ったよりたくさんお客さんがきていて、ドキドキしました。ステージに上がる時も、緊張しすぎて、うまく出来るか不安でいっぱいでしたが、演奏が始まると練習を思い出して、何時もの通り出来たと思います。後半の太鼓をたたくような演奏も上手にできました。演奏が終わったときはとてもホッとしました。たくさんの方が大きな拍手をしてくださり、とてもうれしかったです。そのあとでみんなでリコーダーを吹いたのも、とても楽しかったです。指使いがむづかしかったけど、何とか吹けるようになりました。

9月になってから持ちベルが二つに増えました。左手で鳴らすのはまだ難しいです。でも、いっぱい練習してきれいな音が出るように頑張ります。ハンドベルの初めての発表会は、ドキドキわくわくしたけれど、とても楽しかったです。クリスマスの発表会にはもっとすてきな演奏ができるよう練習を頑張りたいです。

(北岡千夏・小2 & 北岡小夏・小2)

1.ち ち な る み か み は そ ら の ほ し も ぼ う し や、
 2.い っ な で も わ れ た え を よ、 め た の み し たい も な ぼ う し は、
 3.し ゅ を ほ め た た え を、 め た の み し たい も な ぼ う し は、

こ と り た の ち よ り も、 わ れ ら て を み り た も も る。
 わ て れ き ら す の か の た し た み、 す し べ り ら て を し け み た ま も え う。ば。

1. 父なるみ神は／空の星々や
小鳥たちよりも／我らを見守る。
2. いつでも我らを／恵みたもう主は
我らの悲しみ／すべて知れたもう。
3. 主を誉め称えよ／楽しい仲間と
敵する者たち／退けたまえば。

旋律：スウェーデン民謡
 歌詞：C. Sandell (1855)
 E. W. Olson (1925)
 訳詞：石田友雄 (2023年)



日誌 (2023.7.1~9.30)

*R: オンライン参加

- 7.15 **枯れ枝伐採** 聖書の国資料館前の道路を塞いだ枯れ枝を伐採。鈴木造園。
- 7.18 **漏水停止工事** 管理棟の漏水停止工事。聖書の国資料館の漏水箇所は未発見。東部設備工業。
- 7.29 **真夏のお楽しみ歌う会** 参加者9名。
- 8.1~14 **夏期休館**
- 8.4 **漏水停止申告書類作成** 東部設備工業。
- 8.4, 5, 7, 8 **植栽整理** 鈴木造園。
- 8.8 **来訪** 金井哲郎氏 (ヴァイオリニスト、録音エンジニア) ブリュッセルとドレスデンで活動。
- 8.20 **夏休みの音楽会** 「リコーダー合奏をしよう」参加者38名。
相談会 クリスマスの音楽会について参加者6名。
- 8.26 **来訪** 古代オリエント学研究者: 唐橋文氏 (シュメール)、田澤恵子氏 (エジプト)、山田恵子氏 (ヘブライ)、山田重郎氏 (アッシリア)。
- 9.1 **来訪** 坂口ひろみ氏 (ヴァイオリニスト) & 雪絵・マリアちゃん8歳 (ミュンヘン在住)、鴨川華子氏 (チェンバリスト)。
- 9.15 **秋のシーズン開始**
相談会 クリスマスの音楽会について参加者6名 (R1名)。
コンサート つくば国際音楽祭・特別オープニング・コンサート (ナカルリコーダー教室) 参加者85名。

オルガン・クラヴィコード・チェンバロ練習

7. 4/1名、7. 6/1名、7. 7/1名、
7. 8/1名、7. 13/1名、7. 15/1名、
7. 19/1名、7. 20/1名、7. 21/2名、
7. 25/1名、7. 26/1名、7. 27/1名、
7. 28/1名、8. 16/1名、8. 17/2名、
8. 18/1名、8. 20/1名、8. 22/2名、
8. 30/1名、8. 31/1名、9. 1/2名、
9. 6/2名、9. 7/2名、9. 14/1名、
9. 15/3名、9. 16/1名、9. 20/1名、
9. 21/2名、9. 22/3名、9. 27/1名、
9. 28/1名、9. 29/2名、9. 30/1名。

寄付者芳名 (2023.7.12~9.15)

一般寄付

下記の方々から計 56,290 円のご寄付をいただきました。
坂口節子、戸部将一・慶子、石田友雄。

オルガン積立寄付

下記の方々から計 23,500 円のご寄付をいただきました。
安西文子、松村治美。

建物積立寄付

下記の方々から計 35,000 円のご寄付をいただきました。
金谷尚美、安西文子、秋山信勝、三條美千代、橋本周子、伊藤香子、森快士朗、丸山妙子、中原敏昭。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ入門

カンタータ「誉め称えられよ、主は」(BWV 129)

コラール「誉め称えよ」

9.30 オルガン 笠間きよ子。参加者7名。

学習コース

バッハの森クワイア 9. 16/9名、9. 30/9名。

オルガン音楽研究会 9. 15/9名、9. 29/7名。

オルガン・クラブ 9. 22/3名。

バッハの森リンガーズ 7. 16/12名、8. 20/11名、
9. 24/11名。

歴史書・聖書入門 9. 16/5名、9. 30/5名 (R1名)。

クラヴィコード・レッスン 9. 15/2名。

チェンバロ・レッスン 8. 22/2名、9. 29/2名。

